聞いてごしない Part 12

ちょっと古い話になるが、インドへ行ってきた。身銭まで切ってわざわざインドを旅するような物好きは身近にはおらず、従って一人旅ということになったのである。

行き先はVanarasi（ヴァラーナシー）というところで、ヒンドゥ教徒の聖地、ガンガーリバー（ガンジス川）のほとりの歴史ある町である。ボンベイから飛行機で2時間、土漠の上を飛び続けて滑走路が一本だけの小さな飛行場に到着。（米子空港をずっと汚くした感じのイメージ）

Vanarasiはその昔、三島由起夫が「豊饒の海」、遠藤周作が「深い河」、そして椎名誠が「インドでわしも考えた」という小説、エッセイをこのガンガーのほとりで沈思黙考して著したという由緒あるとても奥深い、普段何も考えないでノォーノォーと暮らしている人々には全くもって衝撃的な町といわれている。事実そのとおりであった。

ヒンドゥ教徒が聖なるガンガーで沐浴しているのは、テレビなどでよく観る光景である。実際観てみると、石鹸で体を洗っているだけのように思える。もちろん、信仰心があるからでこそで、ガンガーの水で体を清めることそのものが意義あることなのだろう。沐浴場はガンガーに沿って1キロメーター位の間に何箇所もあり、思い思いの場所で沐浴している。「深い河」が熊井啓監督（だったと思う）で映画化された時、秋吉久美子がここで撮影のために沐浴したというので話題になったことがある。ヒンドゥ教徒以外で沐浴するというのはまずいないから。淀んで汚い、しかも死体がプカプカ浮いているガンガーに誰が好き好んでつかりたいと思うか。

沐浴場のあるエリアの北の端に野外火葬場があった。遠くから眺めていたら、ちょうど沐浴が終わって水からあがってきた若者が案内してくれた。火葬されるのは条件の整った人たちだけで、子供、特定の病気で亡くなった人は火葬せず、重しをつけて沈められるだけだそうだ。火葬も薪で行うため火力が弱く、当然燃え残りが出る。それを遺族が拾ってガンガーに流す。だから沐浴している人たちの沖を浮かび上がった死体がプカプカ流れていくということになるわけである。何とも不思議な光景。死体が流れるそばを人々は沐浴をし、体を洗い、子供たちは水浴びをし、神聖なる牛も同じ場所で洗い清められる。その光景を観光客が、小舟に乗って眺めている。

火葬場の近くには、ホスピスがあって、Vanarasiを自分の死に場所と決めてインド各地から何百人と集まって来るのだそうだ。ホスピスでは、死ぬことが目的だから一切治療はしない。痛み止めとミルクしか与えられず、幸いにも症状が持ち直した場合は追い出され、追い出されても死ぬつもりで来たのだから金もなく、結局は野垂れ死にガンガーに流される。

火葬場の若者も、ホスピスの従業員も暇で好き好んで僕に講釈してくれたわけでなく、彼らいわく、こうして観光客に説明をすることによって寄付金をもらうことが目的であると。とてもじゃないが、死体を焼くにも薪代が結構かかるんだ、ミルクを買うのだって大変なんだと言われれば、ウゥムとうなってしまって何がしかの金を渡さざるを得ない。本当に彼らがボランティア精神でそうやっているのか、もらった金をちゃっかり自分の懐に入れているのかはわからないが、彼らはしきりと寄付をすることによっておまえのカルマがどうだこうだと言っていた。カルマと聞いて長髪髭面の麻原なんとかの顔が浮かんだ。

生と死の厳粛な世界から急に現実的でいかにもインドっぽい話になるが、Vanarasiでの滞在中、各種客引きがそれこそひきもきらず僕にまとわりついて来たということ。それはあたかもハエのようで、払っても払ってもまたどこからか別のが現れるのである。

例えば、小舟に乗らないかという客引き。いいシルクがあるから案内するよという客引き。ヘッドマッサージ安いよという客引き。（聞き間違えてついて行ったら散髪屋でやってもらうような簡単なもので、ベッドマッサージではなかった。）前に書いた火葬場とホスピスの従業員。（神聖なる目的とはいえ、これも寄付を強要する一種の客引きである。）幼い子供による絵ハガキ売りなど。そして僕を案内してくれた小柄なインド人。出会いはこうである。すごくうまい日本語で「すみません。僕は客引きではありません。いいインド人です。日本語の勉強をしています。僕は大学の医学生で、いま休みなので日本人とお話ししたい。」と寄ってきた。ちょっとこちらも気を許して相手をすると、日本語で冗談を言ったり、日本の芸能界の知識を披露したりしてますますこちらを信用させてくる。ここらへんは悪質な客引きが多いから気をつけた方がいい、でも僕がいれば客引きも声をかけられないから近所を案内してあげる、今日お祭りをやるところを知っている、などとますます調子がいい。なかば疑いながらもついていったのが火葬場とホスピスである。その後、食事をして露天の店先で珍しいものを見つけてのぞこうものなら正体を現しだした。「何か土産が欲しいのであればここはやめた方がいい。僕の親が大きな店をもっているのでそこへ案内する。」といって腕を放さない。これだ。こうやってカモを信用させて結局自分の連れ込みたい店へおびきよせるのである。魂胆がわかったので、もうついていく必要はない。そこでダイアナ妃がその人生の最後に言った言葉と同じセリフを大きな声で言ってやった。「Leave me alone!」

有名な作家たちが歩いた道をたどって、同じような精神世界にひたりたいと願って訪れたVanarasiであったけど、結局つぎからつぎへと現れる客引き、物乞いの人々、リクシャー（原動機付きおよび人力三輪車）の値段交渉やらなんやら現世の雑事で疲れ果ててしまったのが現実であった。ヒンドゥ教徒の信仰心や火葬場の光景もインドの真実。すきあらば人の金を一銭でも多くかすめ取ろうとして、ずるく立ち回るインド人もまたインドの真実。

そういったいろんなインドの真実をすべて理解した上で、人は皆インドが好きになるか、とことん嫌いになるか両極端になるのでしょう。僕はまだどちらでもないが、また訪れてみたいという感じではある。そのときは、大名旅行ではなく貧乏旅行スタイルで。

（今日の原稿は、すごく疲れた。　花園TARO）

インターネット玉手箱

昨年から山登りにハマっている…。といってもただの登山ではない。道無き道を縦横無尽に歩き回り、山菜を採ったり、ヤマメやイワナを釣ったりである。

私の友人にマタギの様な方がおられて、その人に色々と教えてもらったのである。昨年秋にはマムシも捕まえて現在、我が家のホワイトリカーのビンの中で永眠している。

このマムシというやつは本当にしぶとい生き物で完全に酒に浸かった状態で１ヶ月以上生きているのである。私の友人はマムシを捕まえるとその場で皮を剥いで心臓をパクッと飲み込んでしまうが私はまだそその域に達していないので、せいぜいマムシ酒か蒲焼くらいなのである。インターネットで「マムシ料理」を検索してみたところ、「生の心臓と胆嚢を生のまま酒で割った生き血と一緒に飲み込みました。これは、消化剤の役目と言ってました。」と書いてあるページを見つけた。そうか、酒と一緒なら少しは飲みやすいかもしれない。今度捕まえたらやってみようかな、と思ったりする。

きのこも沢山採った。コウタケ、マツタケ、は勿論であるが、雑タケの旨いのには驚いた。私はスーパーとかであまり買い物をしたことが無いので、ありふれたキノコの紹介になるかもしれないが、ハナタケ、スギヒラタケ、ナメタケ等は今思い出してもヨダレが出る。シイタケもそこら辺りの山に結構天然物があり、カサが開いて形は悪いのだが自分で採ったという特別な思いと、天然物という先入観からやっぱり買ったものよりかなり旨かった。このシイタケなどは４月中も採れたので酒の肴に重宝した。

私の場合詳しい人と行ったので良かったが、一人で行ったときは、「キノコリンク」等のホームページをきちんと調べることが出来る。

その他、山登りも含め、アウトドアの好きな方は「アウトドア講座」もお薦めです。

インターネットってやっぱり便利。

（マムシ関係）
http://plaza14.mbn.or.jp/~hiroiku/fishing/report/mamushi.htm
（マムシ関係）
http://www02.so-net.ne.jp/~sakae/free.htm
（キノコうんちく）
http://www3.justnet.ne.jp/~tadashikojima/kinoko/doku.htm
（キノコリンク）
http://www.kumagaya.or.jp/~yasutani/links/kinolink.htm
（アウトドア講座）
http://www.wnn.or.jp/wnn-o/yamakei/index.html

６月例会案内

と　き	平成１１年６月15日（火）午後６時30分より
ところ	米子市福祉保健総合センターふれあいの里
内　容	今年度委員会活動報告ならびに次年度委員長抱負
担　当	広報委員会

６月役員会報告

６月定例役員会が、平成11年６月１日（火）、米子食品会館において開催された。当日の議題は次の通りです。

（１）委員会活動報告書作成の件
（２）名簿作成の件
（３）収支見込みの件
（４）６月例会、役員会、総会、25周年記念式典開催の件
（５）その他

※尚、詳細については、各委員長までご照会下さい。

編集後記

『早起きは三文の得』幼い頃親からよく聞かされた諺ですが、元来の意味合いは今日のものとは正反対で、「早起きは（たった）三文の得（にしかならない）」といったネガティブなものだったそうです。それがいつの頃からか「世知辛い世の中、たった三文とはいえ得したほうがいいじゃないか」に変化したそうです。

健康のためにも早起きして澄んだ空気をすってみられませんか？ただし朝日町からの朝帰りは早起きとはいいませんのであしからず。

21世紀への責任 —— Act For Future

Handsome（ハンサム）

1999. 6 No.142

発行人　鳥取県西部中小企業青年中央会　会長　宮　廻　裕　和　　編集責任者　中津尾　直己　　印刷所　東京印刷（株）

新緑の中、レクリェーション例会開催

５月16日（日）岸本町小林の大山まきばみるくの里において、多数の会員ならびに家族の参加のもと５月レクリェーション例会が開催された。

前日の夜から降り始めていた雨も朝方にはあがり、曇り空の中、宮廻会長より本日の例会の趣旨の話をされ、小原審判長の挨拶の後、準備体操を行い競技に移った。

最初の競技は、２人３脚○×クイズ。各人が家族あるいは会員同士で２人３脚をしてクイズに解答する競技である。解答することよりも、皆さん普段やりなれない２人３脚に結構悪戦苦闘していた。２人３脚で走ることが精一杯で問題を忘れてしまう人がおられ、○×エリアの前で「問題なんだったかいな？」という声がしていた。

次の飲食障害リレーは各チーム４名ずつ参加し、アイスクリーム、キムチなど冷たいものや辛いものを食べ終えてリレーをするという競技で、参加している本人は辛そうだが見ているものは大いに喜んでいた。ちびっこ参加の借り物競争は、順位に関係なく、バラエティーに富んだおもちゃの中から好きな品物が選べるとあって皆さんご満悦であった。ねこ車レースは各チーム男女５組を選手とし、男性がねこ車に女性あるいは子供を乗せて障害物をクリアしてゴールするというものだが、会場の傾斜が結構強く、行きは下りだが帰りは上りという悪条件の中、女性を乗せて走る男性は一番辛そうであった。午前中最後の競技は、ザ・綱引きである。各チーム15名ずつ出場し力強く頑張ったが、息が合わないと何倍も疲れるもので、息が合っているチームがやはり一番強い。

昼食の頃から日も差し始め、午後の部が始まったものの会員の皆さんはお腹がいっぱいになったのかごろごろと昼寝をされ始めた中、お絵描きコンクール、大声コンテスト、女性方はバターチーズ作りなど次々と進められていった。最後に一発逆転馬跳びリレーを行ったが、思惑とは違い順位の変動はあまり見られず例会も閉会を迎えた。各会員家族の相手をしながら競技に参加し、楽しい雰囲気の中でレクリェーション例会は終了した。

結果は次の通りである。

１位　堀田副会長チーム
２位　市位副会長チーム
３位　野嶋副会長チーム
４位　中津尾副会長チーム
５位　樋口副会長チーム

例会のためにご苦労いただいた総務・政治行政委員会の皆さんに深く感謝いたします。

西部青年中央会野球部・初の県外遠征！

博多の夜の素振りに終わる!?

◎壮行試合編

去る５月12日、中央会野球部は竜ヶ山球場において浜田一哉会員率いるラビリンスと練習試合を行った。過去のラビリンスとの対戦成績は１勝１敗、実力的にも伯仲する両者ゆえに、10日後に控えた九州遠征の結果を占う絶好の機会となった。

試合はラビリンス先攻で開始された。石指智会員が投手をつとめ相手打線を翻弄、バックの好守備も手伝い６回まで０対０の息詰まる投手戦を展開。残念ながら７回にフォアボールをきっかけに長短打を浴び６点を失ったが、その裏粘る中央会は岡本康朋会員のツーベースを足場に釜田公文会員のセンター前ヒットで１点を返した。試合はそのまま１対６で敗れはしたが、点差以上に白熱した好ゲームであった。

試合後はスナック南米にて、市位清明副会長の音頭のもと宮廻裕和会長を迎えて壮行会を行い、九州での健闘を誓って散会した。

◎博多遠征編…きたろう会（22期ＯＢ）との交流を深める

５月22日午前７時、翌日の“東洋水産㈱野球部”との遠征試合のため米信駐車場を観光バスは出発し博多へ向かった。今回はきたろう会の皆様の研修旅行とスケジュールの調整がつき、総勢30名のバスツアーとなった。

３日は優に暮らせる様な食材が積まれ、発車後即宴会モードに突入した。（飲んだものは排出しなければならず、各サービスエリアに立ち寄ることとなった。）

バスの中では自費参加（添乗員）清水会員の名司会のもと懇親を深めた。野球部現会員の自己紹介から始まり、きたろう会の皆様の自己紹介へ進み「けむりが出るまで。」という記憶に残る発言が飛び出しバスの中は大いに盛り上がった。

午後３時博多到着、夕食までの３時間は自由行動であり各自中州を散策した。

夕食はアサヒビール園にて飲み放題・食べ放題をきたろう会の皆様と満喫し、明日の必勝を期して生ビールで乾杯した。

〈その後の活動は文字数の関係があり割愛しますので、参加者にお聞き下さい。〉

翌日朝８時集合“東平尾公園第３球場”へ向かった。バスへ乗り出した頃からポツリポツリと降ってきた雨足が次第に強まり、着いた頃には試合が出来るのかできないか分からない状態になった。

短時間でも試合をしようと試みたが、グランドに水が溜まり試合中止を決定、再試合を約束しグランドを後にした。

予期のしなかったスケジュール変更のため、各自フリータイムとなった。きたろう会の皆様と一緒に太宰府天満宮を参拝するコース、名残り惜しい中州に戻り食べ歩きコースに別れた。

福岡観光会館博多にて土産を買い博多を後にした。バスの中は行きと違って（イビキはしたが）静かであった。野球の試合ができなかったのは残念であるが、どうやら各自の目的は果たした様である。今回きたろう会の皆様とご一緒でき、大変有意義なバスツアーであった。

第25期西部青年中央会活動方針決定

スローガンは繋（つなぐ）

５月21日、第25期西部青年中央会活動方針説明会が開催され、堀田次年度会長より活動方針ならびに各グループの重点方針などが打出された。（以下、資料抜粋）

《活動方針》

我々をとりまく、社会、経済状況は、循環的変化ばかりではなく、大きな構造的変化を迎えています。

本年、鳥取県西部青年中央会も、25周年を迎えます。会の設立から、今日に至るまでの歴史をよく勉強し、現在ある青年中央会を見つめ直して、今一度、本来の目的、あるべき姿を考えてみる機会の一年としたいと考えています。そして、これからの方向性を、みんなで見据えなおしてみたいと思います。

21世紀を目前にして、グローバルな構造変化の中で、我々青年中央会が、自ら自己革新を行い、変化に対応できるか問われています。

また、我々自身、企業、そして家庭も、変化に対応できる資質を求められています。

我々青年中央会は、決して変えてはならない、伝統、風土はさらに磨きをかけながら、革新すべきは断行する勇気を持ちたいと思います。会員相互、物質的な情報交換から、心の情報交換を行って、変化に対応できる構造改革にとりくみたいと思っています。

心の情報交換「心の共有化」
変化に対応できる「構造改革」

平成11年度委員会組織図

（平成11年５月現在）

会長	直前会長
堀田　收	宮廻　裕和

監事	県出向
河端　謙治	土井　一朗
長谷川　郁	浜　義徳
岩田　慎介	戸野　雅弘
	北野　実

副会長・グループリーダー

ビジネス・マネージメントグループ		環境・教育グループ		広域ビジョングループ		グランドデザイングループ		総務グループ
奥森　隆夫		門脇　浩二		浜田　一哉		小林　慎一		安部　利夫
マネージメント委員会	ビジネス委員会	げんこつ委員会	21地球委員会	地域ビジョン委員会	政治行政委員会	2020グランドデザイン委員会	広報委員会	総務委員会
我々を取り巻く、経済環境の構造変化に対応できる、ビジネスとマネージメントの強化をします。		地球環境の変化と社会環境の変化を直視して、我々のできることは何かを考えます。		我々の暮らす地域はどんなところなのか、また、これからどうあるべきなのか、自由に考えます。		25周年を迎え、青年中央会を我々会員自身が、これからどうあるべきか、守るべきこと、また、革新すべきことを見つめ直し、考える機会を与えます。		諸会議の運営、会員相互、OB会員との交流、また関係諸団体との関係強化を図ります。
委員長	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長
遠藤　健司	夏野　慎介	植田　秀夫	萬田　寿夫	山島　康平	石指　智	前田　真	迫谷　和之	岡本　康朋
副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	副委員長
荒木　信二	金山　福雄	仲前　晴恭	岩﨑　康朗	伊藤　玉一	土井　裕次	種　克則	志田　克史	中原　浩二

5月度委員会報告

経営委員会

平成11年５月11日（火）　於：米子食品会館　出席者／11名

内容／役員会報告の後、まず５月のリクレーション例会の確認を行った。

その後６月に予定している委員会打ち上げの打合わせを行った。会議形式の委員会は今回が最後ということで、各自５分間スピーチを行った。会社紹介、事業内容、今後の展望等話して頂いた。一年近くも一緒の委員会にいながら、仕事の内容とかを知らなかったという人もいて、興味深く聞かせて頂いた。又質問等もたくさんあり、時間超過して散会した。

21地球委員会

平成11年５月11日（火）　於：ホールサムインかいけ　出席者／10名

内容／今年度の委員会活動を通して、メンバー個々の思いを語り合い、委員会のまとめに入った。

環境という大きなテーマの中で、自分にできることを探し、実践してみること、団体としても何か参画し活動することが大切だと再認識した。

その後、25周年分科会の打合わせをして散会した。

2020グランドデザイン委員会

平成11年５月８日（土）　於：マリンピア美保　出席者／12名

内容／今月は、中ノ森委員会の好意により、美保関町の合銀の施設「マリンピア美保」において、静かな環境の中で４時間にわたって１年間のまとめの委員会をおこなった。

最初に25周年事業の当委員会が担当するビジネス交流分科会に関して、進行状況の報告と内容の検討を行った。

次に今回最後になる会員企業の事業分析は、近岡会員の「近岡建築設計事務所」と種会員の「日建」について行った。「近岡建築設計事務所」に関しては、一般の消費者に設計監理という業務の必要性を理解し、認知してもらうということが重要であるということを認識した。「日建」に関しては同業他社との差別化をはかるためのアフターサービスの重要性を再確認し、また情報収集のため横のつながりを大切にすることが大事であるとの結論に達した。最後にまとめとして「事業計画（ビジネスプラン）の作成マニュアル」に基づき、自己の事業の可能性を検討するための「事業計画書」の作成の方法を、事例を交えて勉強した。

委員会終了後は海の幸を味わい、夜の更けるまで大いに盛り上がり懇親を深めた。

ビジネス交流委員会

平成11年５月12日（水）　於：米子食品会館　出席者／７名

内容／１．役員会報告

２．ビジネス交流分科会の中の検討課題について、高知、鳥取の観光についての比較を自由に話し会った。

高知と米子では、風土、人間性、歴史が基本的にちがうので、比較が難しいなど、いろいろな意見が出すぎてまとめる時間がないまま、終了した。

委員長がまとめるのに苦労している。

３．６月委員会の打合わせ。

政治行政委員会

平成11年５月７日（金）　於：デイラウンジ夢　出席者／13名

内容／・役員会報告

・５月リクレーション例会の役割分担

・研修旅行、分科会の打合わせ

地域ビジョン委員会

平成11年５月14日（金）　於：米子食品会館　出席者／10名

内容／１．役員会報告

２．25周年分科会における打合わせ

観光事業における広域連携（合併）をテーマとして、地域間競争を勝ち抜くためのプログラムが練られた。

（１）問題点として、山陰における松江の単独行動の牽制。

（２）結論として、鳥取県西部地域の広域連携により総合力で対抗。

（３）方法として、広域合併を見据えた情報発信のしかけなど…。

げんこつ委員会

平成11年５月14日（金）　於：大連　出席者／９名

内容／委員長からの役員会報告の後、米子児童相談所の山澤重美氏を講師に迎え、「今どきの少年について」という演題で講演していただいた。

山澤氏が喜多原学園から転任後３年間に扱った事業を基に、現代の子供達の性交、これからの学校、家庭のあり方にまで話が及んだ。

中には背筋が寒くなるような内容も多く、現実に子供達の「負」の部分に日々直面している面接員の苦労もわずかばかりだが、垣間見たような気がした。山澤氏は、現代の子供は天真爛漫だが、将来が見えないためにその場限りの現実逃避をし、意地がない、親が自信をつけさせ導いてやれば道は開ける、と話された。そのためにも父権を大切にし、自分の子供には毎日「カウンセリング」（ちょっとした声かけでよい）してやることが重要だとも述べられた。

広報委員会

平成11年５月11日（火）　於：ホールサムイン皆生　出席者／14名

内容／１．役員会並びに分科会報告

２．ハンサム編集並びに各担当決め

３．インターネット関係

４．分科会ビデオ編集・記念誌編集の件

５．委員会活動報告書の件

６．新年度会員名簿作成の件

７．６月例会打合わせ・各担当決め

総務委員会

平成11年５月14日（金）　於：米子食品会館　出席者／15名

内容／網領唱和、役員会報告後９月に現地で行った調査、打合わせをもとに、担当者に段取り、競技説明を行って頂き、当日スムースに準備が出来る様話し合った。

図面上に、配置を詳しく書きこんだり、誰が何を運ぶのか、といった細かいところまで打合わせした。

最後に、全体を通した流れを考えて、問題点等がないかあぶり出し、質問をうけたりして内容をじっくり検討した。あとは天候が晴れになることを願い、委員会を終了した。

25周年特別委員会

平成11年５月７日（金）　於：岩﨑館　出席者／６名

内容／１．役員会報告

２．式典、パーティーのタイム・スケジュールの検討

平成11年５月19日（水）

分科会、実行委員会の検討、内容確認。

第19回全日本トライアスロン皆生大会開催迫る

青年中央会より５名の選手出場決定！

今回で19回を迎える全日本トライアスロン皆生大会が、７月18日に開催される。

マラソン部は、ＡＳ提供事業所への挨拶回りを終え、第１回の部会において６月より本格始動する活動のスケジュールも決定している。一方ボランティア部は、団体ボランティア依頼の挨拶回りを行い、個人ボランティアの募集へ入った。

このトライアスロン皆生大会の成功は、本部派遣会員のみではとうてい達成成し得ない。

ポスター貼り、備品洗い出し、ポイント看板打ち作業等を行うマラソン部への協力を始め、大会当日、ボランティア参加される会員ならびに御家族の皆さん、また会員企業の社員さんの広範に亘る大会参加協力が期待される。

今年は現役・ＯＢあわせ５名のメンバーが出場することとなり、期待に応えるべく日夜、練習に余念がない。（筈であるが、本人のみぞ知るところである。）

現役会員：兼業選手　野嶋功　　生きて帰れるか　長谷川一成　　中部会員の星　家高謙児

ＯＢ会員：一匹狼　松岡正高　　黒い弾丸　和田健二

あの熱い感動を呼ぶ、全日本トライアスロン皆生大会。西部青年中央会の夏は、このトライアスロンから始まる。